
ぐもも

虎刈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ぐもも

【Nコード】
N0161J

【作者名】
虎刈

【あらすじ】
ぐもももも。そう聞こえた。

ぐもももも。

そう聞こえた。

私は今、歩道にいる。

何の変哲もない歩道だ。

目の前を歩行者が行き交い、自転車がゆるゆると通り過ぎる。自分の左脇にはビルが立ち並び、右脇には自動車という名の暴力の塊が流れている。

ああ、あれを暴力の塊と言うのは不適切だったかもしれない。

電車は、あれの比ではないのだから。

せいぜい、自動車は半人前の暴力。

でも、人を殺すには十分。

そう。

人なんて、あの車の流れに触れれば簡単に蹴散らされ、踏みしかれ、ぼろきれになって終わる。

その点では、電車と何ら変わらない。

ほら、車道を中心。

あそこに「何か」がいるじゃない。

あれは、どう見たって死んでいる。

内臓をぶちまけ、顔はひしゃげて、道を体液で撒き散らしたような跡がある。

でも、それすらもこの暴力の流れの前には無関係。

飛び散った内臓は、無残に潰されぺったんこの薄皮。轢かれた本体も、道を中心に弾き飛ばされたわけだ。

さて、あれの正体は何でしょう。
体の大きさ、毛皮の色から判断して猫かもしれない。
でも、確かめられる術はない。
君もあなりたかったら、話は別だけど。

信号が赤になる。

この時のみ、この暴力の流れは止まり、暴力は暴力ではなくなる。
でも、それも一瞬。
今度は別の流れが、別の方向からやって来るんだ。

ぐもももも。

びああああ。

だらららら。

こうして見ていると、この流れは止まることを知らないように思える。

実際、彼らはこんな交差点で止まるつもりは毛頭無いだろう。
血流のように、脈々と。

イメージはマグロ。

海水を、マグロの群れが通り過ぎる。

それは決して人の身では追えず、止めることも出来ない。

私も連れて行つて。

流れに身を委ねる。

遅い君はお断りだよ。

拒絶され、もみくちゃにされ、あそこの「何か」と同様になる。

そんな私を連想する。

いや、妄想か。

目の前の、自身では制御できない暴力の流れ。

それにちよつとでも触れてみたら、指先が千切れ飛ぶだろうな。

ほら、死はこんなにも身近。

ナイフや毒薬、拳銃なんて大袈裟なものを持ち出さなくても、寿命以外の死なんてすぐ側にある。

あははは、愉快愉快。

死んじゃう死んじゃう、一步踏み出すだけで消し飛ぶよ？

あは。

今の車、カーブで私のすぐ鼻先を掠め通った。

ひどいなあ、完全にタイヤが歩道に入っていたよ。

私がつま先だけ前にいたら、考え事をしている間に死んじゃったかもね。

あはははは。

車道。

暴力の流れ。

日常となった、異様。

私はそれに背を向ける。

いいかげん、私も歩き出さないと。

今日も、陽射しが強いなあ。

（後書き）

日常と非日常の違いって、案外近くにあるものなのかもしれません。それと、自殺って実はかなりエネルギーを必要とします。生きるのと同じくらい。

ご意見、ご感想等ございましたらお待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0161j/>

ぐもも

2010年10月9日03時24分発行